

3 R 瓦版 (2 月号)

負けるな!
エコさんくん
作: フジコイトウ



© 2013 フジコ イトウ All Rights Reserved.

中国で環境教育!?

皆様はじめまして。京都市伏見区深草にあります京エコロジーセンター（指定管理者：公益財団法人京都市環境保全活動推進協会）の岩松と申します。どうぞよろしくお願いいたします。京エコロジーセンター（エコセン）に来られたことのある方、まだの方、いらっしやると思いますので、簡単にご説明いたします。1997年の京都議定書を作った会議「COP3」を記念して、2002年4月にできた、地上3階建ての環境保全活動のための拠点施設です。地球温暖化防止を軸に、館内には様々な展示物があり、トレーニングを受けたボランティアの方が、展示物の解説をしてくれます。このボランティアの皆さんは任期が3年と決まっています、3年経つと、その経験を他の活動に活かしてもらう、という環境保全活動への人材供給、市民参画の仕組みになっています。これがエコセンのキモであります。

さて、ここまで読まれても、タイトルとさっぱり関係が無いように思えますが、関係があるのです。実は、6年程前から中国の国家環境保護部が設置を進めているエコセンをモデルにした環境学習施設開設に向けた支援をしています。恐らく、中国の環境と聞けば、あまり良いイメージをお持ちでは無いと思われますが、実はものすごい勢いで改善が進んでいます。中国に行くと、この勢いは日本の上をいくように感じます。都市によってはエンジンのバイクが禁止されていて、電動バイクしか走っていなかったり、北京市内のゴミ収集車は、随時電気自動車に置き換えられていたり、家電の回収から再資源化は日本同様のシステムチックな制度になっていたりしています。中国政府も、資源の枯渇を危惧しており、徹底した分別回収と再資源化を進めていきたい思惑もありますし、大気汚染も日本で目にする報道程ではないものの、短期的には汚染が深刻な面もあるので、なんとかしたいと思っているのです。

そこで登場するのが環境教育なのです。じつは、分別回収のシステムが整い初めているものの、正しく分別されて出される割合はまだまだ低いようです。自動車リサイクルの工場を見学させてもらったときも、ラインは閑古鳥が鳴いていて（名誉のために、家電のラインはフル稼働していたことはお伝えします）「なんで？」と聞くと、不法投棄等が横行しているため、工場にあまり回ってこない、とのことでした。中国では、昨年環境保護法が改正され、この1月1日から、完全施行されています。そこには「一般国民も、環境保護の意識を強化し、低炭素・節約型の生活様式を選択し、環境保護の義務を意識的に果たさなければならない。（6条）」とあり、国をはじめ、各地方政府は今、整えた仕組みを機能させるためにも環境教育を進める事に注力しています。

エコセンで培ってきた市民参画の仕組みを中国に輸出しているわけなのですが、最初は、意味が通じるのだろうか？と思いながらやっていました。しかし、結構あっさりと市民参画の意義が理解され、いまや、法律にまで市民参画の必要性が表記されるに至りました。日中関係は結構な「相互誤解」の上に成り立っていると感じます。環境問題には国境は無く、特に中国の影響は日本に及びやすいため、日中協力は大変重要です。「相互理解」が進み、より円滑な日中協力ができる一助となるよう、頑張っていきたいと思っています。

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会 岩松 洋

RepairFactory (南)本杉工機

京都府久世郡久御山町田井新荒見 220 番地

tel : 0774-46-4654